

小袋谷川と梅田川

小袋谷川の源流は、山ノ内瓜ヶ谷を発する西瓜川と明月谷を發し建長寺や淨智寺などの谷あいからの流れを集めて北鎌倉駅前を通る明月川なので、山之内川と称されていた時もありました。西瓜川と明月川は十王堂橋のそばで合流して小袋谷川となり、いくつかの橋をくぐり抜け山ノ内、台を経て小袋谷の西南端を通り落合橋で梅田川が合流した後、戸部橋の近くで昔その辺では戸部川と呼ばれていた柏尾川に合流しています。又、この川筋が台村との境になっていますので、時にはさかい川とも言われ、江戸時代の文書によると台村とこの川をめぐって何度も争いがおきたそうです。それらの文書には、橋の近くに堰が設けられていた水堰橋の名も度々出てきます。堰は他に一ノ堰、二ノ堰、三ノ堰があつたそうで、そのせいか川の名が水堰川と書いてある村絵図もあります。

梅田川は、栗船山や六国見山の谷あいから發し途中いくつかの流れを集め、小袋谷の東北端を通って落合橋のそばで小袋谷川に合流しています。梅田川の梅田は大船村の古い小字名の一つです。この川が大船との村境をなすので、江戸時代の文書にこれもさかい川と書かれ、明治の皇国地誌では矢堀と書かれています。小袋谷は梅田川を用水としては使わず、排水路として使っていたそうです。